

公益財団法人おかやま環境ネットワーク

～2016年度事業・決算報告 2017年度事業計画・予算～



●里海・里山交流シンポジウム

目次 contents

2016年度事業報告	P. 1～11
2016年度財務諸表等・監査報告書	P. 12～16
2017年度の事業計画・収支予算書	P. 17～18
定款	P. 19～22

平素より格別のお引き立てを賜り、誠にありがとうございます。

本誌を通じておかやま環境ネットワークについて一層のご理解を賜り、身近に感じていただければ幸いです。

今後も変わらぬご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

※活動は皆様のご支援に支えられています。ご入会・ご寄附等のご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



公益財団法人 **おかやま環境ネットワーク**
Okayama Environment Network Foundation

～かけがえのない地球、未来のこどもたちへ～

2016年度の事業報告

(2016年4月1日～2017年3月31日)

はじめに

1. 事業実施にあたっては、参加を増やし裾野を広げることを目指し企画をすすめ、また、単年度の大規模事業を実施した結果、8年連続で事業参加者は増え、他団体や行政等との協働、連携が一層すすみました。
2. 今年度はじめての取り組み等として、全国アマモサミット実行委員会への参加（全国アマモサミット開催）や、岡山県美作県民局との協働事業実施（もったいない・ホテルバズツアー2016）、市民のための環境講座（夏休み親子2企画）の開催、ホテルフォーラム主催に美咲町が加わったことなどがありました。
3. 事業や組織運営のあり方等の検討をすすめました。

1. ネットワーク・広報・研究・助成事業

①. 助成事業

1) 助成活動報告会

5月14日(土)にオルガにて、岡山県下で環境活動を行う団体や個人が集い、日ごろの活動を紹介してさらなる活性化、相互のネットワーク形成をめざし開催し、35名が参加されました。2015年度助成を受けた全11団体（あかいわ美土里の和、アユモドキ里親会、児島湾研究会、千年の森づくりグループ、あかいわエコメッセ、岡山野生生物調査会、中学校環境研究会、旭川源流大学実行委員会、里海づくり研究会議、共存の森ネットワーク、おかやまコープ井笠エリア）からの報告と、参加者間の質疑応答と情報交換をすすめました。



●助成活動報告会の様子

2) 助成部会

助成活動報告会の概要、助成募集要項について協議しました。また、2017年度助成応募の審査を行いました。

3) 助成実績

2016年度は9団体に95万円助成しました。1999年からの18年累計で、199団体に2,085万円を助成しました。

●2016年度団体助成事業・企画一覧

	団体名	企画名
1	「ホテルの里」を記録する有志の会	「ホテルの里」のものがたり作成
2	あかいわ美土里の和	里山再生プロジェクト
3	NPO法人 里海づくり研究会議	沿岸海域における物質循環促進技術の開発
4	千年の森づくりグループ	美咲の森一豊かで、輝く郷づくり
5	おかやまコープ岡山東エリア	親子で学ぶ「瀬戸内海の生き物と環境」
6	あかいわエコメッセ	第18回あかいわエコメッセ
7	岡山理科大学附属高等学校 科学部	旭川流域河川の底生動物を利用した水環境調査
8	認定NPO法人 共存の森ネットワーク	誇りを持って日生を担う若者を育てる
9	おかやまエコマインド ネットワーク	地域を活かす農業と食の安全

●団体助成実績一覧 ※金額：万円

年度	団体数	金額
99	5	65
00	7	100
01	13	110
02	13	137
03	16	150
04	11	102
05	15	147
06	15	129
07	12	120
08	15	150
09	11	94
10	10	93
11	12	100
12	6	90
13	8	102
14	10	126
15	11	175
16	9	95
合計	199	2,085

②. ホタル団体交流会・第14回ホタルフォーラム

1) ホタル団体交流会

年3回開催(4月16日(土):13名参加、7月9日(土):11名参加、9月24日(土):10名参加)し、ホタルの保全活動をととした環境保全活動の交流をすすめる、ホタルフォーラムの運営について検討をすすめました。

また、1月21日(土)に岡山の大学のビオトープ見学学習会を開催し、22名が参加されました。

2) ホタルフォーラム

10月29日(土)に第14回ホタルフォーラムを、美咲町中央公民館にて、美咲町、千年の森づくりグループ、生活協同組合おかやまコープ美作エリアとの共催で開催し、56名(21団体等)が参加されました。

冒頭、美咲町副町長・岡部初江氏より挨拶があり、その後、兵庫県立人と自然の博物館・八木剛氏の基調講演「ホタルとなかよくなるために」に引き続き、美咲町立加美小学校・4年生生徒「水辺学習の報告」、美咲町・仲好団地ホタル保存会・井上和治氏「仲好団地での保全活動」、北房ホタルの文化推進継承の会・坂本信広氏「子ども達や若者のホタル保護と共生」の報告と、質疑応答がありました。

その他、会場内で故・梶田博司氏(元川崎医療福祉大学教授・元おかやま環境ネットワーク理事)所有の写真・各種資料展示や、倉敷市児島・岡本勇氏の資料展示がありました。

午後からは、仲好団地ホタル保存会が保全に取り組む「仲好団地内川原」を視察しました。



●第14回ホタルフォーラム八木剛氏講演



●おかやまホタルフォーラム視察の様子

③. 自然環境の研究・交流

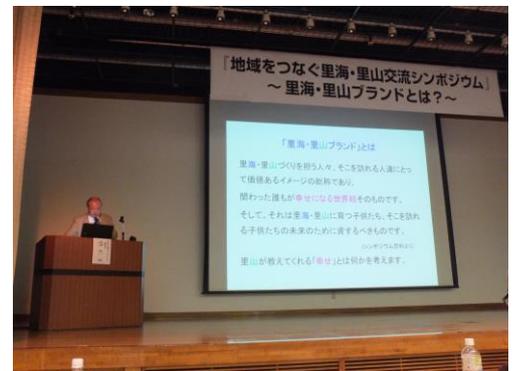
1) 里海づくり推進部会

有識者、事業者、団体、企業、行政等、多様なメンバー参加のもと、里海・里山シンポジウムや体験プログラムの企画検討、参加メンバーの取り組み交流等をすすめました。

2) 里海・里山交流シンポジウム

2月18日(土)に「地域をつなぐ里海・里山交流シンポジウム～里海・里山ブランドとは?～」をテーマに、オルガホールにて、里海、里山、まちの人々が立場や地域を越えて集い、里海・里山づくりを担う人々、そこを訪れる人々にとって価値あるイメージの総称である「里海・里山ブランド」について、それぞれの立場と視点から何をすべきかを考えることを目的に、里海づくり推進部会の企画・運営のもと開催し、129名が参加されました。

冒頭、環境省中国四国環境事務所長・牛場雅己氏より挨拶があり、引き続き、九州大学名誉教授・柳哲雄氏『里海から』と、認定NPO法人共存の森ネット



●里海・里山交流シンポジウムの様子



●里海・里山交流シンポジウムの様子

ワーク理事長・澁澤壽一氏『里山から見た里海・里山ブランド』をテーマに基調講演がありました。

その後、広島大学名誉教授・松田治氏をコーディネーターに、パネリスト8名（基調講演の演者に加え、日生町漁業協同組合専務理事・天倉辰己氏『里海づくりは地域づくり』、笠岡市漁業協同組合北木島支所長・藤井和乎氏『豊かな海への漁師のチャレンジ』、恩納村漁業協同組合代表理事組合長・山城正巳氏『恩納村漁協の里海づくり』、真庭市副市長・吉永忠洋氏『すべての人が輝く「真庭ライフスタイル」実現へ』、岡山市市民協働局 ESD 推進課主査・友延栄一氏『岡山ESDプロジェクト』、生活協同組合おかやまコープ理事・大岸貴美子氏『おかやまコープの取り組み』）による取り組み報告とパネルディスカッションをすすめました。

3) 旭川流域部会

体験プログラム企画検討や、参加メンバーの取り組み、調査研究活動の交流等をすすめました。

また、アユモドキ教本「岡山の川 魚のひみつ基地 高島」を、川の自然環境保全や魚について資料として残すことと、各種企画参加者や会員への配布を通し、効果的、継続的な啓発活動につなげることを目的に、増刷しました。

④. ニュース、ホームページ、メールニュースの発行

- 1) 「おかやま環境ネットワークニュース」を年4回発行し、個人、団体、企業の交流につなげました。
- 2) 月2回のメールニュースの発行と、ホームページの更新を通じ、情報提供をすすめました。
- 3) メールニュースの登録者数は1,337名となり、各事業の参加申込につながっています。
- 4) 活動紹介パンフレットや事業・決算報告書をいろいろな機会に配布し、活動紹介や会員獲得を図り、27会員（個人・団体）の入会がありました。

⑤. 環境家計簿の普及

- 1) 環境家計簿委員会：環境家計簿モニター実績をまとめ、「環境家計簿レポート」や「環境家計簿カレンダー」の原稿を作成しました。
- 2) 2015年のモニター実績報告をまとめた「環境家計簿レポート」を7月に岡山市と協働で発行しました。報告は396世帯からあり、その内2014年と2015年の2年間分の全データが揃った242世帯実績を集計し、1世帯当たりのCO₂排出量は前年比11.3%の削減につながりました。
- 3) 2016年のモニター登録数は、未報告世帯の登録を取り消した結果、257世帯に減少しました。
- 4) 暮らしの見直し啓発ツールとして、11月に「環境家計簿カレンダー」を岡山市と協働で発行し、会員とモニターに送付しました。

●ネットワークニュース No.85

●環境家計簿カレンダー2017

●環境家計簿レポート

2. 啓発事業

①. 市民のための環境講座

市民を対象に環境問題を正しく理解し、意識啓発や行動を促すことを目的に、多数の参加をめざし開催しました。全13回シリーズ（第14回は中止）で、過去最多の307名が参加されました。

岡山県生涯学習大学連携講座に指定され、また、神島寺間・見崎里浜づくりや生活協同組合おかやまコープ井笠エリア、ママカリ普及委員会、岡山市、岡山市エコ技術研究会との共催が実現できました。

- 1) 6月17日(金) 神島寺間・見崎里浜づくり代表・森中憲治氏「アマモ再生教室①現地観察会と取組学習」15名参加
- 2) 7月30日(土) (株)サンキョウ-エンビックス・神原直也氏、森平枝里香氏「夏休み親子企画・ご家庭にある保冷剤を使って芳香剤を作ってみませんか？」27名参加
- 3) 8月3日(水) ママカリ普及委員会代表・林宗男氏、海洋建設(株)・片山貴之氏「夏休み親子企画・ママカリの調理・試食を通して自然環境・海洋資源を考えよう」61名参加
- 4) 8月5日(金) 神島寺間・見崎里浜づくり代表・森中憲治氏「アマモ再生教室②種選別」33名参加
- 5) 9月10日(土) NPO 法人里海づくり研究会議理事(おかやま環境ネットワーク理事)・田中丈裕氏「“海のゆりかご”と地球環境の関わり」16名参加
- 6) 9月20日(火) 岡山市エコ技術研究会理事・稲見圭紅氏「捨ててはいけない！食品ロス問題を考える」24名参加
- 7) 9月24日(土) 岡山県農林水産総合センター水産研究所研究員・中力健治氏「藻場の生態系復元実証事業紹介」7名参加
- 8) 10月1日(土) 岡山地方気象台次長・松本行博氏「気象に関する防災知識及び災害について」21名参加
- 9) 10月12日(水) 神島寺間・見崎里浜づくり代表・森中憲治氏「アマモ再生教室③育苗キット製作体験」25名参加 (岡山県立笠岡工業高等学校も参加)
- 10) 11月26日(土) 岡山県立大学名誉教授・伊藤國彦氏、岡山市環境保全課「岡山市生物多様性地域戦略タウンミーティング・里地・里山と生物多様性」29名参加
- 11) 12月10日(土) 岡山理科大学理学部名誉教授(おかやま環境ネットワーク理事)・野上祐作氏「環境を知るための市民の科学 (Part2)」11名参加
- 12) 1月28日(土) 吉備国際大学社会科学部教授(おかやま環境ネットワーク理事)・井勝久喜氏「環境問題は解決できるの～会場参加型講座～」16名参加
- 13) 2月13日(月) 神島寺間・見崎里浜づくり代表・森中憲治氏「アマモ再生教室④苗定植体験」22名参加 (岡山県立笠岡工業高等学校も参加)



●市民のための環境講座
林 宗男 氏



●市民のための環境講座
田中 丈裕 氏



●市民のための環境講座
笠岡アマモ再生教室③



●市民のための環境講座
野上 祐作 氏

②. 体験プログラム

次代を担う子どもの参加する取り組みを大切に考え、自然にふれ親しみ、自然との共生、自然の大切さ、いのちのつながりなどを伝え、自然環境や普段のくらしを考えるきっかけをつくることを目的に開催しました。

● 第1回：6月5日(日)『アマモ場観察 カヌー・伝馬船体験』

全国アマモサミットの里海体験ツアーとして、アマモ場再生活動発祥の地・備前市日生町鹿久居島「米子湾」で生活協同組合おかやまコープ岡山西エリアと共催で開催し、55名が参加されました。

当日は、カヌー・伝馬船に乗って、アマモ場観察をとおり、30年間継続してきた成果を体感し、アマモや海への関心を深める学習をすすめました。

● 第2回：6月12日(日)『大野川いきもの調査会』

ホタルの観察をとおり、自然環境の大切さを実感することを目的に、自然豊かな御津の大野川流域の大野公会堂並びにその周辺河川敷にて開催し、54名が参加されました。

当日は、岡山野生生物調査会・岩城孝志氏を講師に、現地の自然環境やホタルの生態等についての解説の後、3班に分かれ、岡山野生生物調査会、岡山理科大学附属高校の指導のもと、ホタルの観察と出現数をカウントしました。最後に講師から調査結果のまとめの報告がありました。また、地元の皆様に「いのししカレー」をふるまっていただきました。

● 第3回：6月18日(土)『もったいない・ホタルバスツアー2016』

岡山県美作県民局との協働事業として、北房文化センター及びほたる公園周辺にて開催し、172名(申込504名)が参加されました(共催：生活協同組合おかやまコープ岡山西・倉敷・美作エリア、後援：真庭市、岡山県ごみゼロ社会プロジェクト推進会議)。

当日は、岡山県美作県民局・山口博史次長から開会挨拶があり、環境×スローライフ×CSR 研究所・小桐登氏「蛍と一緒に考える4Rのお話」の講演と、岡山野生生物調査会・岩城孝志氏「ゲンジボタル・ヘイケボタル・ヒメボタルの生態と観察から」の講演の後、参加者を4班に分け、各班の講師先導のもと、ほたる公園周辺にて、主にヒメボタルを中心にホタル観察会(コース全長約2.5km)を実施しました。また、参加者には「ホタルの手引き」、「おかやまのホタルをよむ」の冊子を啓発資料として配布し、会場内では、岡山県エコ製品及びマイバッグ運動の展示がありました。



● 『アマモ場観察 カヌー・伝馬船体験』



● 『大野川いきもの調査会』



● 『もったいない・ホタルバスツアー2016』



「ホタルの手引き」

- ・第4回：7月31日(日)『高島干潟いきもの観察会』
 児島湾高島干潟にて開催し63名が参加されました。
 当日は、岡山理科大学理学部准教授・齋藤達昭氏、岡山野生生物調査会・吉鷹一郎氏を講師に、干潟の役割や現地のいきものについての解説の後、実際に干潟の中に入り、いきもの採集体験と、採集できたいきもの解説を聴き、「干潟の役割」や「水の中の命のつながり」について考えました。



●『高島干潟いきもの観察会』

- ・第5回：8月11日(木)『富・白賀川の自然と文化を学ぼう』
 オドロキの自然環境が残る旭川源流を専門家の解説を聞き、源流の豊かな自然と文化を満喫しながら、自然観察と文化・伝統を学ぶことを目的に開催し、63名が参加されました。



●『富・白賀川の自然と文化を学ぼう』

- 当日は、岡山理科大学理学部教授・山口一裕氏、岡山理科大学理学部准教授・齋藤達昭氏、岡山野生生物調査会・吉鷹一郎氏等を講師に、極西和紙工房と森江製材所を見学し、白賀溪谷にて、オオサンショウウオの調査状況の報告を受け、溪谷の散策、水辺のいきもの採集・観察会をしました。

- ・第6回：8月26日(金)『瀬戸内海のいきものとアマモが育てる環境学習』
 生活協同組合おかやまコープ岡山東エリアとの協働事業として、岡山県農林水産総合センター水産研究所で開催し、25名が参加されました。
 当日は、研究所の概要説明と施設見学、チリメンモンスター（とれたてのチリメンの種別）、海辺のいきもの観察会をしました。



●『瀬戸内海のいきものとアマモが育てる環境学習』
 チリメンモンスター

- ・第7回：10月15日(土)『つぼ網漁見学～里海の漁法～見学学習会』
 獲りすぎないことで海からの恩恵をいただくという「里海」の最も肝心な概念に通じ、次世代につなげていくことができる「つぼ網漁」を見学学習することにより、里海の保全活動への関心を広げることを目的に、日生町漁業協同組合の協力のもと開催し、41名が参加されました。

当日は、「つぼ網漁」の解説を聞いた後、船上から漁を見学し、昼食時にはつぼ網漁で獲れた3種のえびの試食と、「お魚の美味しい話」を聞きました。

- ・第8回：10月15日(土)『アマモ種選別・種まき体験プログラム』
 日生町漁業協同組合の協力のもと開催し、79名が参加されました。
 当日は、前半、アマモ種選別作業を行い、後半、9グループに分かれ、船の上から種をまきました。



●『つぼ網漁見学～里海の漁法～』

● 第9回：11月3日(木)『大野川いきもの調査会』

6月12日の継続企画として、御津大野公会堂並びにその周辺河川敷にて開催し、43名が参加されました。

当日は、岡山野生生物調査会・吉鷹一郎氏を講師に、現地の自然環境やいきものの生態等についての解説の後、4班に分かれ、岡山野生生物調査会、岡山理科大学、岡山理科大学附属高校の指導のもと、いきもの観察をしました。最後に講師から調査結果のまとめの報告がありました。また、地元の皆様に「いのししカレー」をふるまっていただきました。



● 『大野川いきもの調査会』の様子

● 第10回：11月6日(日)『旭川かいぼり調査2016』

岡山市北区・竹枝小学校前の旭川河川敷にて、いきもの調査を、竹枝学区ふるさと活性化協議会他、多くの団体等と共催で開催し、392名が参加されました。

当日は、旭川本流河川敷と中洲の間を一時的にせき止めて、生き物調査と、川底の石を返し川を耕し、ゴミ拾いをしました。午後からは採集したいきもの解説を聴き、豊かな自然環境を確認しました。

また、「旭川かいぼり調査パンフレット(第2版)」を参加者に配布しました。



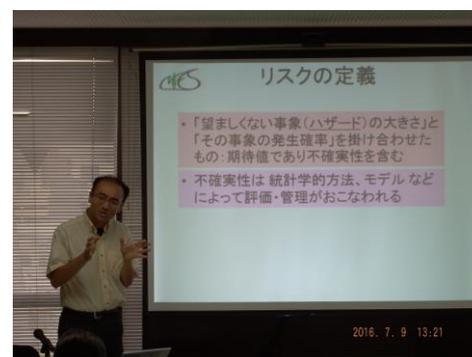
● 『旭川かいぼり調査2016』

3. 他団体や行政などとの関係

①. 水環境フォーラム in 岡山

第13回は、7月9日(土)、(社)日本水環境学会中国四国支部岡山地域分科会、岡山理科大学環境教育地域支援研究会と共催で、「水環境中の化学物質と生態影響」をテーマに開催し、15名が参加されました。当日は、国立環境研究所環境リスク健康研究センター生態毒性研究室室長・山本裕史氏「国内の環境汚染化学物質のリスク評価・管理体系の現状と課題」、岡山大学大学院環境生命科学研究科助教・田村生弥氏「河川水・河川底質中の生活関連汚濁物質の影響評価」、岡山県環境保健センター環境科学部水質科・新和大氏「岡山県における水環境中の化学物質調査について」、鳥取大学大学院工学研究科助教・高部祐剛氏「シジミの濃縮特性を活用した残留性有機汚染物質モニタリング手法の開発」の講演後、総合討論にて意見交換をすすめました。

第14回は、12月3日(土)「資源・エネルギー循環の拠点としての排水処理施設」をテーマに開催し、26名が参加されました。当日は、京都大学大学院地球環境学堂准教授・大下和徹氏「焼却を中心とした下水污泥の処理・処分の動向」、京都大学大学院工学研究科講師・日高平氏「メタン発酵を中心とした下水污泥の処理・処分の動向」、メタウォーター(株)事業戦略本部事業企画部担当課長・福嶋俊貴氏



● 第13回「水環境フォーラム in 岡山」
山本 裕史 氏



● 第14回「水環境フォーラム in 岡山」
大下 和徹 氏

「資源・エネルギーの循環の拠点としての下水処理場」、岡山県農林水産総合センター畜産研究所専門研究員・白石誠氏「畜産排水の処理と利用」の講演後、総合討論にて意見交換をすすめました。

②. 6月3日(金)~5日(日)全国アマモサミット2016 in 備前

アマモ場再生活動発祥の地備前市日生町にて、備前市立日生市民会館をメイン会場に「全国アマモサミット2016 in 備前」が開催されました。3日は「沿岸環境関連学会連絡協議会ジョイントシンポジウム」、4日は「全国アマモサミット(1,000名参加)」、5日は「高校生サミット」の他、「流れ藻回収大作戦」「カヌー体験」などの体験企画も行われ、全国各地でアマモ場再生活動に取り組む様々な立場の人たちが3日間延べ2,000名集い、情報共有や交流を図りました。

③. 10月3日(月)アマモ再生活動関連企画「日生における小学校・中学校連携アマモ場再生活動」

地域と世代を越えた里海づくりの一つとして「地域と世代をつなぐ里海づくり」をテーマに、備前市立日生中学校の生徒と日生西小学校の児童に、おかやまコープ井笠エリア、おかやま環境ネットワークが加わり、日生西小学校にて開催し60名が参加されました。

当日は、日生町漁業協同組合・天倉専務からアマモの役割の解説の後、日生西小学校児童が、アマモ種子を使ってアマモポッドを作成しました。アマモ実生は、小学校にて成長過程を観察の後、2017年2月7日潜水作業により定植されました。

④. 10月15日(土)アマモ保全活動交流会

恩納村漁業協同組合と日生町漁業協同組合、岡山県水産課、NPO法人里海づくり研究会議、生活協同組合おかやまコープ、(株)井ゲタ竹内、おかやま環境ネットワークの計12名参加のもと、アマモ保全活動とおした里海づくりについて、意見交換をすすめました。

⑤. 行政などとの関係

- ・「岡山県協働による環境学習推進事業運営委員会」、「岡山E S D推進協議会運営委員会」、「全国アマモサミット2016 in 備前実行委員会」へ参加し、役割を発揮しました。
- ・「市民のための環境講座」を神島寺間・見崎里浜づくり、生活協同組合おかやまコープ井笠・備北エリア、岡山市、岡山市エコ技術研究会と共催で、岡山県生涯学習大学指定のもと開催しました。
- ・岡山市と協働で「環境家計簿レポート」「環境家計簿カレンダー」を発行しました。
- ・岡山県美作県民局と協働で「もったいない・ホタルバスツアー2016」を開催しました。
- ・美咲町と共催で「ホタルフォーラム」を開催しました。

4. 法人管理・会計等

①. 公益財団法人定期報告と役員変更登記等

理事・監事改選と評議員の選任、それに伴う登記を行い、定期報告を行いました。

②. 会員の状況

	団体	個人	企業等	合計
2016年度末	47	125	39	211
2015年度末	50	122	42	214

2016年度入会の状況

	団体	個人	企業等	合計
入会	2	25	0	27

③. 財政

- ・事業実施にあたり他の団体や行政等との連携や協働により事業参加者が増え、また、事業費が見込みより減額できたことなどにより、経常収益は予算比105.6%と上回り、経常費用は予算比96.8%と下回りました。
- ・収支予算は収支均衡としていましたが、上記により約43万円の黒字となり、45万円を20周年記念事業準備資金として、特定費用準備資金に積み立てました。

公益財団法人おかやま環境ネットワーク役員・評議員

平成28年度

理事

	氏名	略歴等
1	青山 勳	岡山大学名誉教授
2	秋山 秀行	(株)大町代表取締役社長
3	井勝 久喜	吉備国際大学教授
4	齋藤 達昭	岡山理科大学理学部准教授
5	榊 誠司	生活協同組合おかやまコープ執行役員
6	阪田 祐作	岡山大学名誉教授
7	清水 善朗	弁護士
8	白井 浩子	日本科学者会議岡山支部会員
9	塩飽 敏史	公益財団法人水島地域環境再生財団理事・研究員
10	田中 丈裕	特定非営利活動法人里海づくり研究会議理事・事務局長
11	千葉 喬三	学校法人加計学園相談役
12	榊崎 一夫	生活協同組合おかやまコープ職員
13	野上 祐作	岡山理科大学名誉教授
14	花口 光	岡山の自然を守る会事務局長・会長
15	三村 健	サンヨー印刷(株)相談役

以上、理事15名（50音順）

代表理事：青山 勳、業務執行理事：榊 誠司、榊崎 一夫

評議員

	氏名	略歴等
1	伊藤 國彦	岡山県立大学名誉教授
2	大山 健二	岡山大学生生活協同組合専務理事
3	河本 志津恵	岡山医療生活協同組合常任理事
4	北川 文夫	岡山理科大学教授
5	小橋 賢之	(株)建美装社代表取締役
6	田中 照周	生活協同組合おかやまコープ専務理事
7	日野 進一郎	日野環境デザイン研究所代表
8	檜山 伸吾	児島湖流域エコウェブ理事
9	平田 まき子	加計学園水質管理室
10	福留 正治	岡山環境カウンセラー協会顧問
11	藤田 賢治	(株)フジタ地質代表取締役
12	宮本 紀子	生活協同組合おかやまコープ有識者理事

以上、評議員12名（50音順）

監事

	氏名	略歴等
1	岡本 秀雄	生活協同組合おかやまコープ常勤監事
2	横山 順二	岡山手延素麺株式会社代表取締役

以上、監事2名（50音順）

顧問

	氏名	略歴等
1	奥田 節夫	京都大学名誉教授
2	河原 長美	岡山大学名誉教授

以上、顧問2名（50音順）